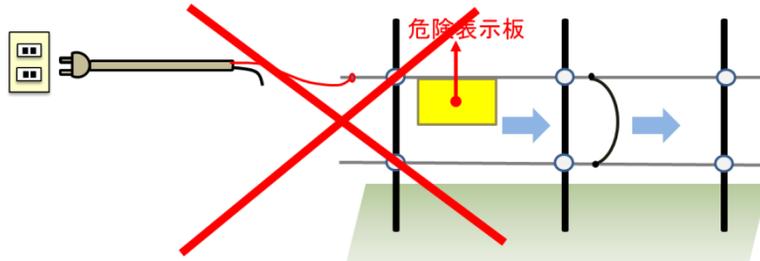


電気柵

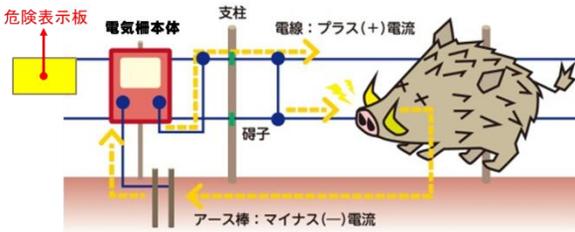
電気柵は、野生動物に電気ショックを与えて、心理的に農地から遠ざけるための道具です。ただし、正しい設置方法と維持管理を実施しなければ効果は継続しません。以下の設置方法で効果の高い電気柵にしましょう。

専用の電気柵本体(電気柵用電源装置)を必ず使用して、正しい方法で管理、使用していれば安全性は確保されています！！

100Vのコンセントなどの電流を直接電気柵ワイヤーに流すことは違法です。きわめて危険なため、絶対にやめましょう。



電気柵のしくみ

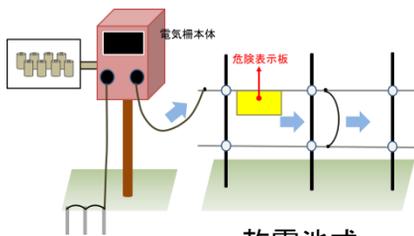


電気の流れ

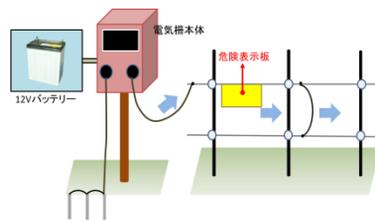
電気柵本体→電線→動物→地面→アース→電気柵本体
(動物が電線に触れることによって(+)と(-)の回路ができて感電する。)

電気柵は専用の電気柵本体(電気柵用電源装置)から電気の供給を受けることが法律で決まっています！

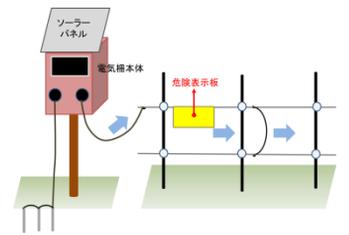
電気柵本体への給電は、乾電池式、バッテリー式(12V)、ソーラーバッテリー式、電灯線(100V)アダプター式、電灯線(100V)式があります。



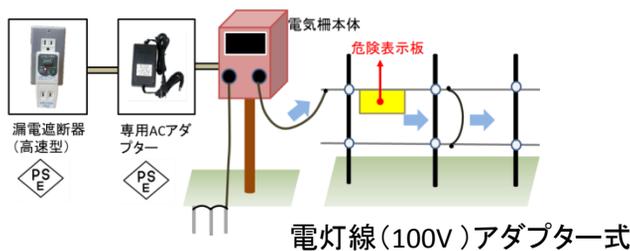
乾電池式



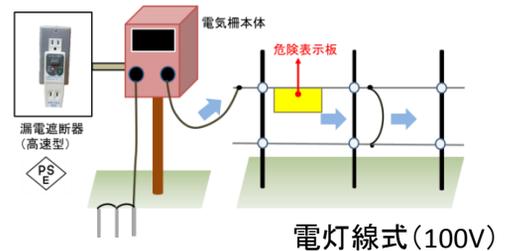
バッテリー式(12V)



ソーラーバッテリー式



電灯線(100V)アダプター式



電灯線式(100V)

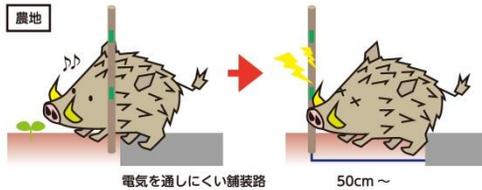
電灯線(100V)アダプター式、電灯線(100V)を使用する場合

法令:①専用の電気柵本体が30V以上(コンセント用の交流100Vなど)の電源から電気を供給するときは、電気用品安全法(PSEマーク)の適用を受けたものを使用すること。

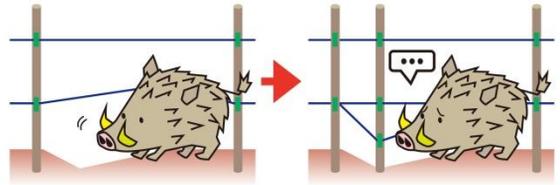


法令:②上記①において、公道などの人が容易に立ち入る場所に施設する場合は、危険防止のために、15mA以上の漏電が起こったときに0.1秒以内に電気柵を遮断する漏電遮断機(PSEマーク)を施設すること。

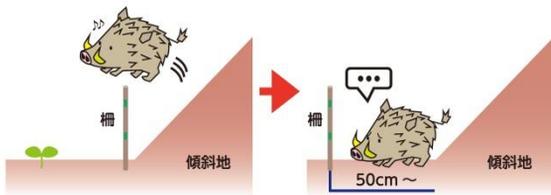
Point 1. 通電性の良いところに設置する



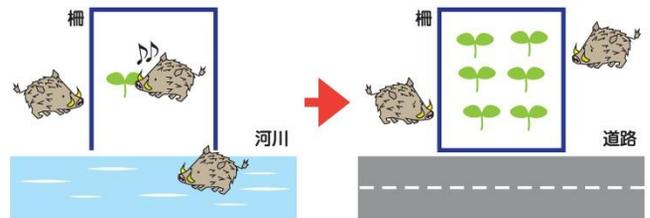
Point 2. 侵入空間ができないように設置する



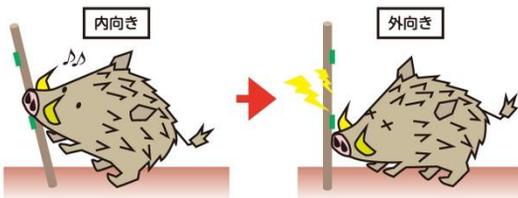
Point 3. 傾斜地から離して設置する



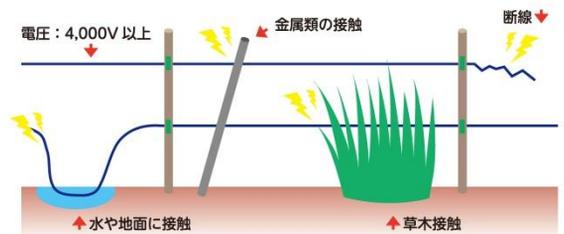
Point 4. 周囲を隙間なく囲う



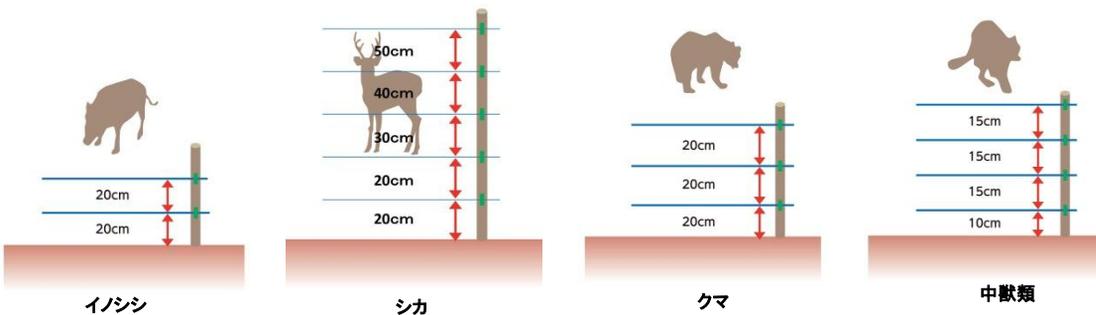
Point 5. 碍子は外に向けて設置する



Point 6. 設置後は定期的な点検・管理をする



Point 7. 電線は動物に合わせた高さに調節する



複数種が出没する地域では、各動物に合わせて電線の高さを調節する必要があります



MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER
島根県 中山間地域研究センター

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207

担当科：鳥獣対策科

問い合わせ先：0854-76-2025（代表）

E-mail：chusankan@pref.shimane.lg.jp